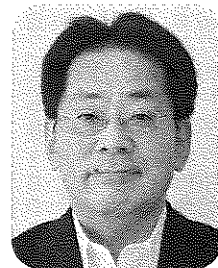


しんくみ 事例紹介

中小企業団体中央会との連携による事業者支援

信用組合が目指す「育てる」金融。いわき信用組合では福島県中小企業団体中央会との連携により、「食ビジネス」と6次化事業者へのさまざまな支援を行っている。信用組合業界が取り組むクラウドファンディングやビジネスマッチング展と組み合わせた骨太の支援策は、地域社会における「いいわしん」の存在感をさらに増している。



いわき信用組合 業務企画部 理事部長 本多洋八

当組合は福島県中小企業団体中央会（以下、「中央会」と）の連携により、福島県の助成金等を活用した地域の「食」と6次化事業者支援を強化している。さらに、この取組みを10月に開催される「2016しんくみ食のビジネスマッチング展」へとつなげる仕組みを充実させることにより、信用組合の提案力強化を図り、地域での競争力の強化を目指している。

1 当組合が活用する福島県の助成金等について

はじめに、当組合が活用する助成金等について説明したい。

(1) 福島県が活用する助成金等

本事業は、都道府県が中小企業基盤整備機構とともに作った基金の運用益を財源とした助成金で、全国の40都道府県で

設立されている（図）。

いくつかの助成対象事業のうち金融機関が申請可能な「産業支援機関が行う中小企業育成事業」分野において、平成28年から30年までの3年間に実施する事業として当組合が採択を受けた。金融機関では平成20年以降で当組合だけである。開催費用の約半分が助成されることから、当組合は、この助成金を活用して「磐城国」地域振興「食」と6次化連携ビジネス創出支援セミナーを2期にわたって開催することを予定している。

(2) 福島県の恵みPR支援事業

二つ目は「福島県の恵みPR支援事業」である。これは、福島県の農林水産物（加工品を含む）の販売促進等PR活動に対する支援策として設けられた助成金で、この助成金を活用して「しんくみ食のビジネスマッチング展」への出展者

支援を行っている。

本来、出展者は信組が4万円の負担をした残り2万円の出店費用が必要だが、この費用を0円にしたうえ、東京に前泊する1事業者1人当たり1万円、最大2人までの宿泊費用を補助している。

これは「他の金融機関が行うマッチング展と比べてもありがたいサービスだ」と出展者から好評をいただいている。

流通関係が行う物産展も含めて、こうした催事に参加する出展者は「通常の販売会では宿泊費や交通費、会場での駐車料金などの費用で利益が残らないことも多い」という。「食」関連事業者の販売する品物は単価が低く、販売会で利益を確保するのは容易ではない。ビジネスマッチングや東京圏での販売会は商品のPRが目的であり、そうした経費も広告宣伝費の一環との考えもある。しかし、

我々が支援する小規模事業者にとっては無視できないものであることも事実である。

「しんくみ食のビジネスマッチング展」に参加している事業者からは「信用組合が主催するマッチング展には面白いお客が

多数来場する。これは他の金融機関が行う同種の催事とは大きく違うところ」といった声も寄せられている。実際に買い物をする人、すなわち消費者に最も近い存在である信用組合への評価だと受け止めている。なお、今年、昨年初めて参加した5事業者すべてを含む10社（昨年より1社増）が参加する予定である。

2 中央会との連携

さて、これらの助成金の活用はすべて中央会の担当者との密接な連携から申請、採択へとつながったものだが、当組合が地域の農林水産業と6次化事業者、加えて「食」事業者に対する取組みを具体化させたのも中央会との連携からである。

東日本大震災時に発生した福島第一原子力発電所の事故は地域の農林水産業に猛烈な風評被害をもたらした。5年を経た現在もその影響は大きい。

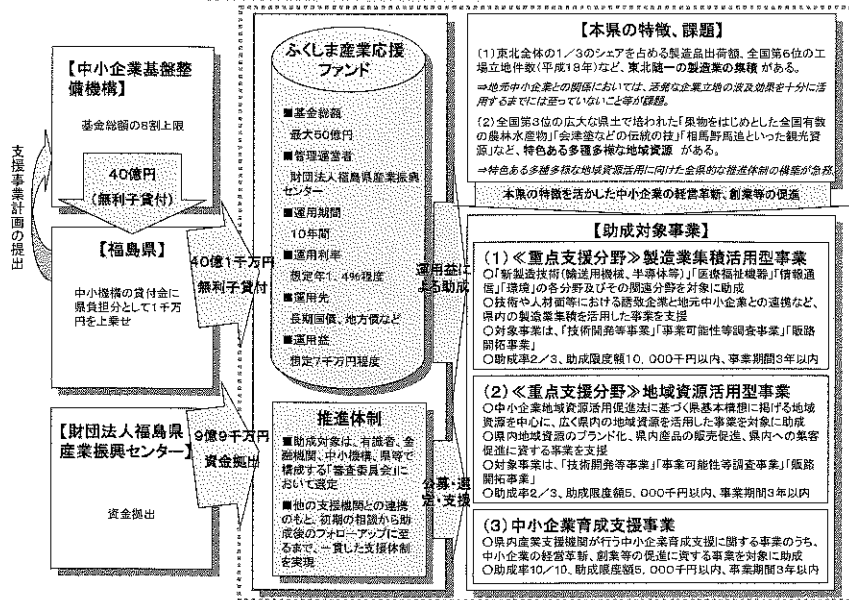
こうした事情から当組合も強い問題意識をもっていった。当組合は練り物などの水産加工業者の取引先は多いものの一次産業の生産者との接点は

3 「食ビジネス」と6次化推進フォーラムの開催

最初に行ったのは、中央会と当組合の主催による「食ビジネス」と6次化推進フォーラム（平成27年6月1日、いわき市平の「ラトブ」にて開催）である。

しんくみ事例紹介

ふくしま産業応援ファンド ～スキーム図





「食」と6次化・連携ビジネス創出支援セミナー」での増田紀彦氏講演

地域密着投資ファンドとクラウドファンディングで応援します！

「磐城国」地域振興
「食」と6次化・連携ビジネス創出支援セミナー
 受講者募集！受講料無料！
 【主催】いわき信用組合 福島県いわき農林事務所
 【協賛】福島県中小企業団体中央会 いわき商工会議所
 【受講スケジュール】

開催日	時間	会場
7月7日(水)	13:30	いわき信用組合 本店5階 会議室 TEL 707-8182 FAX 707-8182-5
7月9日(金)	16:00	福島県いわき合同庁舎 中会議室 TEL 707-8288 FAX 707-8288-5
7月14日(水)		

お問い合わせ: 0246-92-4111

ビジネスマッチング展」の認知を広げて、ひいては地域での「信用組合」の存在価値を高めていると思う。

そればかりではない。7月に開催した「食」と6次化連携ビジネス創出支援セミナー」からは新たなマッチングが誕生した。平成22年から当地でオリブの栽培に取り組みグループと自然派化粧品製造・販売を行う女性事業者による新商品の開発である。

開発する商品はオリブの葉を使った手作り石鹸である。食品の開発ではないが、農商工連携のひとつの形であると位置付けている。詳しくは当組合が運営する「FAAVO磐城国」をご覧ください。ただ、現時点で日本最北限の地で栽培に成功したオリブを地元の事業者が

商品にするというプロジェクトは、一次産業の生産者から加工業者までを支援する一気通貫スキーム作りに苦心する当組合だからこそ手がけることができたのではないかと感じている。

5 おわりに

前述したとおり、この分野に取り組み金融機関はいまのところ当地にはない。そのためこうした情報が当組合にもたらされるが多くなってきた。さんまを使った郷土料理を復刻させて商品化を計画する水産加工業者や、菌床なめこを従来からの流通経路とは別に供給する計画を進める生産者からの相談が寄せられている。

こうした事業者へは「FAAVO」の

ほかミュージックセキュリティーズ株式会社との業務提携による「セキュリティ」そして全信組連が同社と伊藤忠商事、毎日新聞社とともに立ち上げる購入型クラウドファンディングの利用と当組合の地域振興ファンドからの投資といった多様な資金調達手段の提案を行っていく。

また、販路開拓には本年4月に連携協定を結んだ第一勧業信用組合との東京圏での物産展参加と同信組取引先とのマッチングを実現していきたい。

今後は、インターネットを使ったマッチングサイトの運営事業者や農産法人に対するリスクマネジメントを得意とする外部機関との業務連携を検討していく予定である。そのうえで、中央会が運営する「ふくしま地域産業6次化サポートセンター」と連携して、商品開発やビジネスモデルの課題解決、販売戦略の再構築などを指導する専門家「6次化イノベーター」の派遣を利用した事業者のハンズオン支援にも積極的に取り組んでいく計画である。

中央会はじめ外部機関の強みを取り込んだこうした一連の仕組みを当組合の提案力強化へとつなげて、地域における「信用組合」の存在価値向上に結び付けていきたい。

(注) <https://faavo.jp/wakinokuni>



「食ビジネス & 6次化推進フォーラム」

いわきでフォーラム
講演や事業説明会
六次産業化を理解
 六次化推進に向けて理解を深めたフォーラム

「食」と6次化・連携ビジネス創出支援セミナー」は、7月1日(水)いわき市の市庁舎で開催された。参加者が農産物の加工・流通の重要性を学び、地域振興の重要性を認識した。

農産物の加工・流通の重要性を学び、地域振興の重要性を認識した。

農産物の加工・流通の重要性を学び、地域振興の重要性を認識した。

福島民報 (平成27年6月3日)

福島県いわき農林事務所との共催とし、いわき商工会議所、(公社)いわき産学官ネットワーク協会、日本政策金融公庫いわき支店に後援していただき、いわき「オールいわき」体制によるフォーラムを開催することができた。

このフォーラムからは今につながるいくつかの出会いがあった。

ひとつは中央会からの推薦で講師を依頼した増田紀彦氏(一般社団法人 起業家支援ネットワークNICe代表理事)とのつながりである。増田氏は異業種連携からの新たなビジネス創出や起業家支援の実績が豊富で、震災後は福島県の農

商工連携支援に取り組んできた人物。当時、福島県の中通りや会津地方では有名だったものの、いわき市での講演は初めてだった。

このフォーラムがきっかけとなり、当組合の異業種交流会「うるしの実クラブ」での講演のほか、今年7月に実施した「食」と6次化・連携ビジネス創出支援セミナー」(平成28年7月7日、8日)は、いわき信組本店にて、14日は福島県いわき合同庁舎にて開催)の講師も務めていただいた。さらに増田氏の幅広いネットワークから複数の企業にマッチング提案をしてもらうほか、農商工連携に関する

さまざまなアドバイスをいただいている。昨年の「しんくみ食のビジネスマッチング展」に新たに出展した事業者のうち2社はこのフォーラム参加者であった。また、この分野でいわき産学官ネットワークやいわき農林事務所とのつながりもでき、今年行ったセミナーもいわき農林事務所との共催で行っている。さらに、今年2月に運用を始めたクラウドファンディング「FAAVO磐城国」(ファーパーいわきのくに)の外部パートナー2者と出会ったのもこのフォーラムである。

ことほど左様に、中央会との連携を起点に、従来からの中小企業・小規模事業者に対する支援にプラスして地域の「食」と6次化事業推進の輪が、広がりを見せてきたのである。

4 他金融機関との差別化

この分野でのビジネスマッチングの開催と出展案内は当地で競合する信金や銀行でも行っている。しかし、公的な助成金を有効活用しているのは当組合のみ。これも中央会との不断の情報交換のたまものである。その結果、他の金融機関と差別化した提案ができていくと感じている。いささか大仰な表現ではあるが、中央会との協働が全信組連、中央協会、東京都信組協会が主催する「しんくみ食の